

檀信徒の皆さまへ

日蓮正宗 佛乗寺 住職 笠原建道

## 『法華初心成仏抄』 弘安元年 五七歳

地獄には墮つるとも、仏になる法華経を耳にふれぬれば、是を種として必ず仏になるなり。されば天台・妙楽も此の心を以て、強ひて法華経を説くべしとは釈し給へり。(御書一三一六頁)

### 《法華経を聞いた功德》

悪しき行いが原因で地獄に生まれても、一回でも法華経を耳にしたことがあれば、その法華経が幸せになる種(もと)になります。種から芽が出て、やがて実になるように、妙法蓮華経の種から芽がでて、必ず仏に成ることができます。必ず幸せになることができます。ですから、中国の唐の時代に法華経を弘めた天台大師や妙楽大師も、「相手の意に沿わないかも知れないが、法華経を教えてあげるべきです」と折伏の意義を説き明かされております。

### 《支部登山》

五月七日に支部総登山を執り行いました。多くの方々とともに大御本尊様に御目通りが叶いました。園部登山部長・浅羽登山主任をはじめ皆さまのご尽力があって、無事に罪障消滅の修行ができました。

ご苦労様でした。ともに大きな功德を積む修行になったことを信じます。

新緑につつまれた総本山。暑くも寒くもない気候。交通渋滞のない道中。一生のうちに何度も経験できない恵まれた登山会でした。

御開扉では、

「ここに足を運んだ皆さまが一人のもれもなく、幸せの妨げとなる「罪障」を消滅させ、必ず幸せになれます。信じてお進み下さい。祈って励みましょう」

と仰せ下さる日蓮大聖人様のお言葉が聞こえたことと思います。

### 《不思議なこと》

帰りのバスでは、大聖人様のお使いをすることができる不思議で有り難いことがありました。

談合坂サービスエリアで休憩し、車両長の浅羽さんがバスの前に立ち、迎え入れをしていたときに、

「私たちの乗るバスが、私たちをおいて出発してしまった。新宿まで行きたいのだが、このバスに乗せてもらえないか」

と、二人ずれの男女から英語で話しかけられました。幸い席に余裕があり、運転手さんも異存はないとのことでしたので、

「新宿であれば高井戸駅までお乗せいたしましょう」

と答え、帰路につきました。

お二人からは、フィリピンから観光で来られたこと、本栖湖の芝桜を見に行った帰りであること、一緒に日本に来たお子さんたちは別の場所で観光していること、またカトリックの信仰をされていること、等々のお話がありました。

私たちは、英語に堪能な山本さんと中谷さんが中心となって、日蓮正宗のこと、富士大石寺のこと、このバスは登山の帰りであること等の話をしました。さらに、このバスは佛乗寺まで行くバスであり、お寺にお参りをして御授戒を受けるように、と折伏をしたところ、素直にうなずき大聖人様のお弟子になることができました。

### 《強いて法華経を説くべし》

冒頭の『法華初心成仏抄』は、  
「法華経を耳にしただけで、地獄の苦しみから救われるのである。まして、文

底の法華經、独一本門の教え、三大秘法の南無妙法蓮華經を耳に入れるのであるから、地獄の苦しみから救うばかりか、仏に成ることができるのである。ゆえに、強い心、自信と誇りをもって、日蓮正宗のことを話さない」という意です。

この人に信心の話をしたい、しかし、仮りに御授戒を受けたとしても、その後の指導や育成ができないかも知れない、と弱い心になり、相手の人と自らの成仏へのチャンスを逃しているのが私たち凡夫です。そのような弱い心の私たちを励まして下さるのがこの御文です。

宗祖日蓮大聖人様の「強いて法華經を説くべし」の教えを、愚直に守る佛乗寺檀信徒に、御法主日如上人の「折伏をしまいりましょう」とのお言葉を素直に実践する私たち佛乗寺法華講衆に対して、この度のような不思議で有り難い現証をもって、もっともっと精進をなさい、と励まして下さっているのだと感じました。

お二人が、佛乗寺の支部登山のバスに乗ることができたのは、過去に南無妙法蓮華經を聞いたことがあったからです。その縁をより確かなものにするためには、聞くだけではなく「持たしめる」ことが大切です。それが御授戒です。

信心をしている私たちの立場からいえば「戒を持たしめる」、未入信の方の立場からいえば「戒を授かる」、つまり御授戒です。

「強いて説くべし」との教えは、御本尊様と未入信の方を取り結ぶ唯一の方法、相手を成仏に、幸福な生活に導くための、最高・最大のものです。

大聖人様にお誉めいただくことを目標に、お題目をさらに唱え、折伏の修行に励み、世界中の人が大御本尊様のもとに参詣が叶うように願うのが日蓮正宗富士大石寺の信仰に励んでまいりましょう。